

第4回 輪島市復興まちづくり計画検討委員会

日 時：令和6年9月20日（金）

14時00分

場 所：輪島消防署2階大会議室

会 議 次 第

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 会 議
 - (1) 報告事項
 - ・ 門前町浦上地区
 - ・ 輪島朝市エリア
 - (2) 輪島朝市エリアに関する提案
(本町商店街振興組合・輪島市朝市組合)
 - (3) 議決事項
 - ・ 基本構想について
 - (4) 復興まちづくり計画の検討について
4. 閉 会

第4回 輪島市復興まちづくり計画検討委員会 配席図 (敬称略)

		東北大学 教授 姥浦 道生 委員長		
(オブザーバー)				(震災復興対策本部)
国土交通省 総合政策局 地域交通課 課長 墳崎 正俊	輪島市区長会会長 会長 久保 敬夫 委員		輪島商工会議所 会頭 久岡 政治 委員	輪島市 企画振興部 部長 山本 利治
国土交通省 都市局 市街地整備課 課長 筒井 祐治 (代理：熊木 雄一)	輪島市社会福祉協議会 参事 大下 百合野 委員		門前町商工会 会長 沢田 隆 委員	輪島市 産業部 部長 永井 一成
国土交通省 住宅局 住宅総合整備課 課長 浦口 恭直 (代理：石井 秀明)	(一社) 輪島青年会議所 理事長 川口 有吾 委員		経済産業省 中部経済産業局 産業部 流通・サービス産業課 課長 藤井 隆史 委員	輪島市 建設部 部長 福尾 原悟
(独) 中小企業基盤整備機構 北陸本部 本部長 押田 誠一郎 (代理：宮本 有也)	国土交通省 北陸地方整備局 企画部 部長 信太 啓貴 委員		国土交通省 北陸信越運輸局 石川運輸支局 支局長 猿谷 克幸 委員	
(独) 都市再生機構 都市再生部 事業企画室事業支援課 課長 森 和子	石川県 能登半島地震復旧・復興推進部 創造的復興推進課 担当課長 井田 政晴 委員		公募市民 森 郁子 委員	
	公募市民 山崎 瑞稀 委員		公募市民 山下 祐介 委員	
事務局				

輪島市復興まちづくり計画検討委員会委員名簿（敬称略）

（任期：計画策定まで）

役 職	氏 名	備 考
東北大学災害科学国際研究所 空間デザイン戦略研究分野 教授	姥浦 道生	委員長
輪島商工会議所 会頭	久岡 政治	
輪島市区長会長会 会長	久保 敬夫	
門前町商工会 会長	沢田 隆	
輪島市社会福祉協議会 参事	大下 百合野	
輪島市各種女性団体連絡会 会長	中門 睦子	欠席
一般社団法人輪島青年会議所 理事長	川口 有吾	
経済産業省 中部経済産業局 産業部 流通・サービス産業課 課長	藤井 隆史	
国土交通省 北陸地方整備局 企画部 部長	信太 啓貴	
国土交通省 北陸信越運輸局 石川運輸支局 支局長	猿谷 克幸	
石川県 能登半島地震復旧・復興推進部 創造的復興推進課 担当課長	井田 政晴	
公募市民	森 郁子	
公募市民	山崎 瑞稀	
公募市民	山下 祐介	

輪島市復興まちづくり計画検討委員会オブザーバー名簿（敬称略）

（任期：計画策定まで）

役 職	氏 名	備 考
輪島市 復興まちづくり特別アドバイザー	隈 研吾	オンライン代理 堀木 俊
文部科学省 文化庁 文化資源活用課 課長	塩川 達大	オンライン
経済産業省 商務・サービスグループ 文化創造産業課 伝統的工芸品産業室 室長	山口 徳彦	オンライン
経済産業省 中小企業庁 経営支援部 商業課 課長	伊奈 友子	オンライン
国土交通省 総合政策局 地域交通課 課長	墳崎 正俊	
国土交通省 都市局 市街地整備課 課長	筒井 祐治	代理 熊木 雄一
国土交通省 住宅局 住宅総合整備課 課長	浦口 恭直	代理 石井 秀明
観光庁 参事官（産業競争力強化）	本村 龍平	オンライン
観光庁 観光地域振興部 観光資源課 課長	柳瀬 孝幸	オンライン
独立行政法人中小企業基盤整備機構北陸本部 本部長	押田 誠一郎	代理 宮本 有也
独立行政法人都市再生機構 都市再生部 事業企画室 事業支援課 課長	森 和子	



もとよりもっと 新・輪島
輪島市復興まちづくり計画

基本構想

令和6年9月20日



I 復興まちづくり計画の基本的な考え方

(1) 輪島市復興まちづくり計画策定の趣旨

- 復興まちづくり計画は、令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震（以下、「震災」と言う。）により、甚大な被害を受けた輪島市（以下、「本市」と言う。）の復旧・復興の実現に向けた基本理念を示すとともに、本市の一刻も早い復興の達成を目指し、今後の取り組むべき施策を体系的に定めた復興の指針として策定するものです。
- これまでに第2次輪島市総合計画に基づいて進められてきた、ずっと住んでいたいと思える「まち」を「復興まちづくり計画」において踏襲しつつ、新しい視点も取り入れた創造的復興を達成するためのまちづくりを目指します。

(2) 計画の対象区域

- この度の震災では、被害が市内全域に及んでいることから、市全体を復興まちづくり計画の対象とします。



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

(3) 計画の期間

- 計画の期間は、令和7年4月から令和17年3月までの概ね10年間とし、下記の3つのステップを設定することにより、段階的な創造的復興を目指します。
- 復興の基盤を構築する「復旧期」
- 震災の影響により低下した本市の機能を回復させ、未来への足がかりをつくる「再生期」
- 新たなまちづくりが進み、将来の発展に向かって戦略的に取り組みを推進していく「創造期」

(4) 計画の位置付け・役割

- 「復興まちづくり計画」は、被災に伴い必要となった復興への考え方を示す役割を担います。
- 「復興計画」は「第2次総合計画」を踏襲するとともに、本計画を重ね合わせたものとします。
- 「第2次総合計画」の計画期間が令和8年度までとなっているため、「復興計画」をベースに、令和7年度以降「第3次総合計画」の策定に取り組みます。





もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

(5) 復興に向けての基本理念（スローガン）

『もとよりもっと 新・輪島』 ～みんなでつなぐ復興まちづくり～

令和6年元旦に本市を襲った「令和6年能登半島地震」は、市全域に未曾有の壊滅的な被害をもたらしました。

この状況を克服するべく、これから復興に向けた新たな挑戦、「創造的復興」が始まります。

この創造的復興では、輪島塗、観光、農林漁業などの産業や、これまで培ってきた伝統や文化、景観など地域の財産を後世に継承するとともに、これまでにできなかった新しい取組にも積極的に挑戦していきます。

震災をきっかけにこれまで以上に魅力的で、豊かで、安心して暮らせるまちをどのように創っていくのかについて、多様な選択肢を示しつつ市民の皆様の声をしっかり聞いて、計画に反映していくことが最も大切なことです。

発災以降、市民の皆様には様々な場面で様々な思いを語っていただいております。これら個々の思いに耳を傾けながら、10年、20年先の未来を見据え、市民の皆様と共に、復興に向けてチャレンジしていきます。

私達は、この震災をきっかけに、震災前よりもっと魅力的で、安心して暮らせる輪島市を創りあげてを宣言します。長く険しい道のりになりますが、輪島市民が一丸となって「もとよりもっと 新・輪島」を成し遂げましょう。

(6) 目標（3本の柱）

震災復興を達成するため、基本理念のもとに以下の目標（3本の柱）を定めます。

1 被災者の生活再建

2 地域を支える生業の再興

3 新たなまちへの再生



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

II 輪島市の復興まちづくりの課題と取組（骨子）

（1）復興まちづくりの課題

<これまで実施した調査など>

被災状況

現時点における被災状況

市民意見

わじま未来トークでの意見

区長会長へのヒアリング

各団体の意見

住民アンケート結果

<見えてきた主な課題>

●被災者の生活再建に向けた視点
●地域を支える生業の復興に向けた視点
●新たなまちへの再生に向けた視点

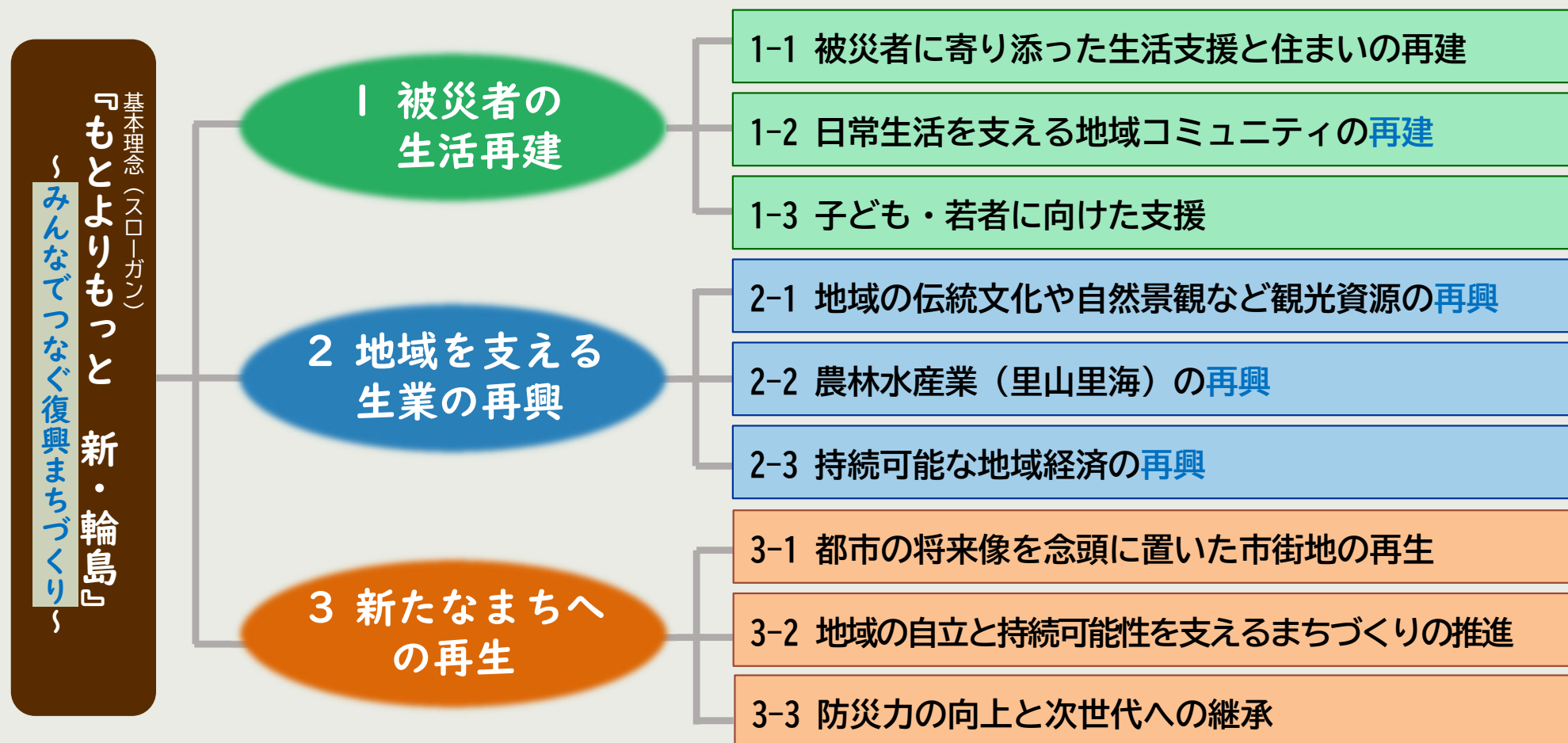
- 住まいの困窮や日常生活の変化 ● ●
- 生活拠点の変化による地域コミュニティの低下 ● ●
- 子育て環境の低下や若年人口流出の加速化 ● ● ●
- 観光資源の被災や観光入込客数の減少 ●
- 農林水産業関連施設の被災 ●
- 事業環境の低下や雇用の喪失 ● ● ●
- 火災や家屋の解体による都市機能の低下 ● ● ●
- 孤立集落の発生や避難生活の長期化 ● ●
- 過疎地域における想定外の大災害への対応力 ● ● ●

もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想



(2) 復興まちづくりの取組（骨子）

青字は前回委員会意見を踏まえた変更点



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想



青字は前回委員会意見を踏まえた変更点

Ⅲ 復興に向けた取組

Ⅰ 被災者の 生活再建

1-1 被災者に寄り添った 生活支援と住まいの 再建

- ・家屋に甚大な被害を受けた被災者が今後の「**生活や住まいの再建方法**」について考えることのできる環境を整えます。
- ・「**住まいの自力再建や耐震性向上に対する支援**」や「**災害公営住宅の建設**」など支援の多様性の確保により、豊かな日常生活の確保を目指すとともに、被災者の**生活再建に向けた支援**を推進します。
- ・被災によって受けた、**心と体のケアの推進**に取り組むとともに、保健・福祉施設等の早期復旧により、市民のだれもが安心して暮らせる**地域の包括的な支援・サービス提供**を回復します。

1-2 日常生活を支える 地域コミュニティの 再建

- ・従前からの居住地や仮設住宅、災害公営住宅など様々な場所での生活を支えるため、被災した集会所等の再建・修復など、**地域コミュニティの再構築・育成**を図ります。
- ・安全・安心な場所への居住に関する**地域からの希望に対応した居住地を確保**します。
- ・将来持続可能な公共交通による移動環境を確保するとともに、人工知能（AI）等の新技術や市民が参画する新たな交通手段の導入により利便性の向上を図ります。

1-3 子ども・若者に 向けた支援

- ・地域の宝である子どもたちが輪島で学ぶことができるよう、**学校の整備や復旧などにより教育環境を整える**とともに、被災前から不足していた子育て支援施設を拡充し、**安心して子育て出来る環境**を整えます。
- ・仮設住宅となった学校グラウンドの代替となる場所としての**子どもの遊び場及びスポーツの場の確保**もふくめ、子どもの**健康的な心身の成長を促す取組**を推進します。
- ・**若者の地域定着・還流**のための受け皿となる**魅力ある就労の場と雇用の創出**を図ります。



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

青字は前回委員会意見を踏まえた変更点

2 地域を支える 生業の再興

2-1 地域の伝統文化や 自然景観など観光 資源の再興

- ・「地域を支える生業の再興」として、「輪島塗」に代表される漆器業、「輪島朝市」をはじめとする商店街や酒蔵と密接に関係している観光業、輪島の食文化を支える「漁業」や「農林業」など各種産業の復活により地域活力の創出を目指します。
- ・日本の農業の象徴的な存在である、白米千枚田がかつての姿を取り戻すための取り組みを進めます。
- ・被災した観光施設・名所・自然景観等の再整備や、トキとの共生に向けた取組を支援します。
- ・関係人口等も活用しながら、伝統産業・祭り等の維持・継続に取り組みます。
- ・災害を振り返り、文化・景観資源等への災害の記録や記憶を知見として整理し、後世に継承します。

2-2 農林水産業（里山 里海）の再興

- ・1次産業である農林水産業において、被災した農機具・施設や漁船・漁具などの復旧事業へ最大限の支援により、農林漁業者の自己負担軽減を図るほか、後継者育成など担い手確保に取り組みます。
- ・甚大な被害が生じた水産業については、国、県と連携し、港湾・漁港を早期に復旧させるとともに、復興にむけて観光産業とも連携して地域経済を牽引する取組を進めます。

2-3 持続可能な 地域経済の再興

- ・全国的にも知名度の高い輪島塗については、輪島塗職人の事業再開支援のほか、産業としての持続性の観点から、後継者育成や創業支援、原材料の確保とともに、現代に求められる商品づくりや販路開拓等の基盤強化を図ります。
- ・中小企業・小規模事業者に対して、若手事業者の確保や各種支援策の実施等により、地域に根ざした経営基盤の強化と地場産業の再建を図るとともに、人材流出抑制の受け皿となる魅力ある就労の場と雇用の創出を図ります。
- ・輪島朝市や商店街など事業者の再建を支援します。



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

青字は前回委員会意見を踏まえた変更点

3 新たなまちへの再生

3-1 都市の将来像を念頭に置いた市街地の再生

- ・ 多様な世代が将来にわたって安心して生活できるよう、土地区画整理事業等による街区の再編、低未利用地の集約化や基盤整備を図り、災害に強いまちへの転換を目指します。
- ・ 道路網やライフラインの復旧・整備に加え、生活・経済活動に最低限必要な公共インフラである道路・公共交通、上下水道、電気（再生可能エネルギーの活用等）、通信手段の強靱化を推進します。
- ・ 大規模災害発生時に一部の区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全に繋がらないように、交通ネットワークやライフライン施設の多重化を図ります。
- ・ 市外に避難された方の帰還や、新たな移住・定住者に関する受け入れ体制の充実を図ります。

3-2 地域の自立と持続を支えるまちづくりの推進

- ・ 地域の再生として、利用しやすい場所への公共施設等の集約や再整備、安全・安心な場所での居住地の確保や宅地の復旧等、地域課題に対応したまちづくりを進めます。
- ・ 美しい街並みの再建、狭あい道路の解消や公園等の確保など、地域の創意工夫による活力に満ちた暮らしやすいまちづくりを支援します。
- ・ 各地域に人・モノ・情報の交流拠点を整備し、将来も安心して住み続けられる輪島を創ります。
- ・ 環境に優しいエネルギー利用の推進を通じて、持続可能で安全な生活環境を確保します。

3-3 防災力の向上と次世代への継承

- ・ 安全な避難路・避難場所の整備・拡充を推進します。
- ・ 地域住民・関係機関等と連携した避難所運営訓練の実施等により、運営力の強化を図ります。
- ・ 震災を教訓とした、防災体制の強化を図ります。
- ・ 災害の記録・記憶により培った、防災に関する様々な知見の次世代への伝承に取り組みます。
- ・ 自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」等を身に付けることを念頭に置いた避難訓練など、知識の習得にとどまらない実践的な防災教育を展開します。

もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想



IV 復興に向けたシンボル・重点プロジェクト（案）

青字は前回委員会意見を踏まえた変更点

シンボルプロジェクト

輪島朝市周辺再生プロジェクト



地震及び火災で甚大な被害を受けた朝市周辺を輪島市における復興のシンボルとして再建し、防災対策を強化しながら朝市と商店街及び住まいの共生を目指した市街地整備を行います。また、新たなチャレンジや交流を促進して、新しいまちとして生まれ変わるための環境整備及び支援を行います。

重点プロジェクト

輪島市の復興まちづくりを牽引する先導的取組として、5つの重点プロジェクトを定めます。

（各項目の詳細は次ページ）

1 魅力ある住まいと拠点づくりプロジェクト

2 ひとと自然が育む子ども・子育て応援プロジェクト

3 まちの活力を高める商店街・観光再興プロジェクト

4 輪島塗をはじめとした伝統産業・伝統文化再興プロジェクト

5 輪島の恵みを取り戻すみなと復興プロジェクト



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

IV 復興に向けたシンボル・重点プロジェクト（案）

青字は前回委員会意見を踏まえた変更点

重点プロジェクト

1 魅力ある住まいと拠点づくりプロジェクト

安全・安心かつ利便性を高めた住まいの確保を進めるとともに、各種公共施設や生活拠点の集約化などにより、持続可能なまちづくりを進めます。

また、耐震性に優れた住宅の建設・改修や、伝統建築物の耐震化を進めるとともに、地域コミュニティにおける自立的な防災力強化を図り、生活の質の向上と防災インフラの強化を両立します。



2 ひとと自然が育む子ども・子育て応援プロジェクト

輪島市が持つ豊かな自然環境を活かし、子どもたちが自然と触れ合いつつ、様々な学び、体験にチャレンジしながら成長できる教育環境や遊び場などを確保します。

また、都会や他地域からの児童生徒を積極的に受け入れつつ、地域住民と外部からの支援者が協力して、学校を中心としたコミュニティの再生を図り、地域の活力を取り戻します。



3 まちの活力を高める商店街・観光再興プロジェクト

市民生活に密着した市内の各商店街及び個別商店の再建への支援とともに、まちに新たな活力を生み出せる魅力ある個店の立地を積極的に支援し、地元経済の好循環を促します。

また、従来からの交流人口を受け入れる観光地の魅力を生かしつつ、地域に対して特別なつながりや愛着を持つ関係人口を増やす取組みによる持続可能な観光の実現を目指します。更には、デジタルの活用によりこれまで実現できなかった能登半島全域の地域資源の組み合わせによる長期滞在を実現します。



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想



IV 復興に向けたシンボル・重点プロジェクト（案）

青字は前回委員会意見を踏まえた変更点

重点プロジェクト

4 輪島塗をはじめとした伝統産業・伝統文化再興プロジェクト

輪島の風土に育まれた輪島塗をはじめとした伝統産業については、世界を相手に商売ができる高度な伝統技術と現代のニーズの融合によって、誰もが手に取った瞬間に欲しくなる商品を生み出せる産地となるために、新たな雇用の伝承、商品開発、販路開拓などを支援します。

また、輪島独特の能登瓦の家屋が立ち並ぶ風景や伝統的建築物、祭り・風習などの伝統文化は、その良さを継承したなかで、関係人口が地域の魅力を広く発信する仕組みの構築につなげます。



5 輪島の恵みを取り戻すみなと復興プロジェクト

漁業・水産加工業などの水産業を再興するため、港湾・漁港・各種施設の迅速なインフラ復旧を進めるとともに、水産業従事者への支援を強化します。

また、観光客の嗜好やニーズの多様化に対応し、輪島の魅力ある魚介類や水産加工品などの付加価値を高めます。そして、輪島ならではの新鮮な野菜等の食材や調味料との組み合わせにより、震災からの復興を印象づける新たな「輪島ブランド」の創出に取り組みます。

更には、クルーズ船の誘致を見据えた港湾整備や地元食文化の発信などに取り組みます。





もとよりもっと 新・輪島
輪島市復興まちづくり計画

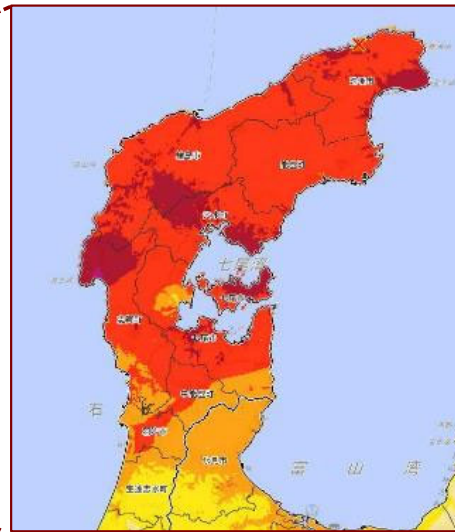
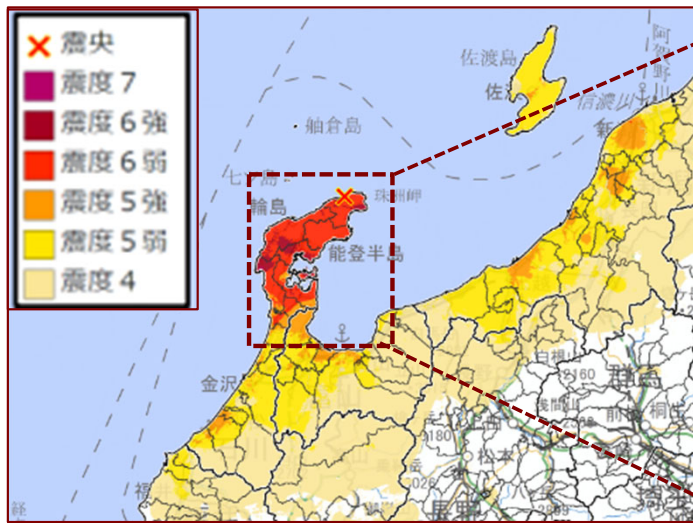
－ 参考資料編 －

基本構想



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

(1) 令和6年能登半島地震の概要と被災状況



- (1) 発生時刻
令和6年1月1日16時10分頃
- (2) 震源地 石川県能登地方
震源の深さ 約16 km
- (3) 地震の規模
マグニチュード7.6
- (4) 県内の震度
 - ・震度7 : 志賀町、輪島市
 - ・震度6強: 七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
 - ・震度6弱: 中能登町
 - ・震度5強: 金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町
 - ・震度5弱: 白山市、津幡町、内灘町
 - ・震度4 : 野々市市、川北町

資料: 気象庁資料

被害の概要

主な人的被害 (6/27時点)

- ・ 死者 130名 (参考: 県全体死者数281人の46%)
- ・ 行方不明者 3名

主な建物被害 (6/27時点)

- ・ 全壊 7,896件 (うち住家4,028件)
- ・ 大規模半壊 1,489件 (うち住家884件)
- ・ 罹災証明発行件数 23,218件 (うち住家10,062件)
- ・ 応急仮設住宅建設数 2,878件 (うち2,282件完成)
- ・ 公費解体相談件数 7,654件、受理 4,201件

避難の状況

- ・ 避難者数 ピーク時12,406人→6/27現在371人
- ・ 避難所数 ピーク時40施設→6/27現在21施設
- ・ 孤立集落 ピーク時33箇所・2817人→1月末までに実質的に解消

ライフラインの被害

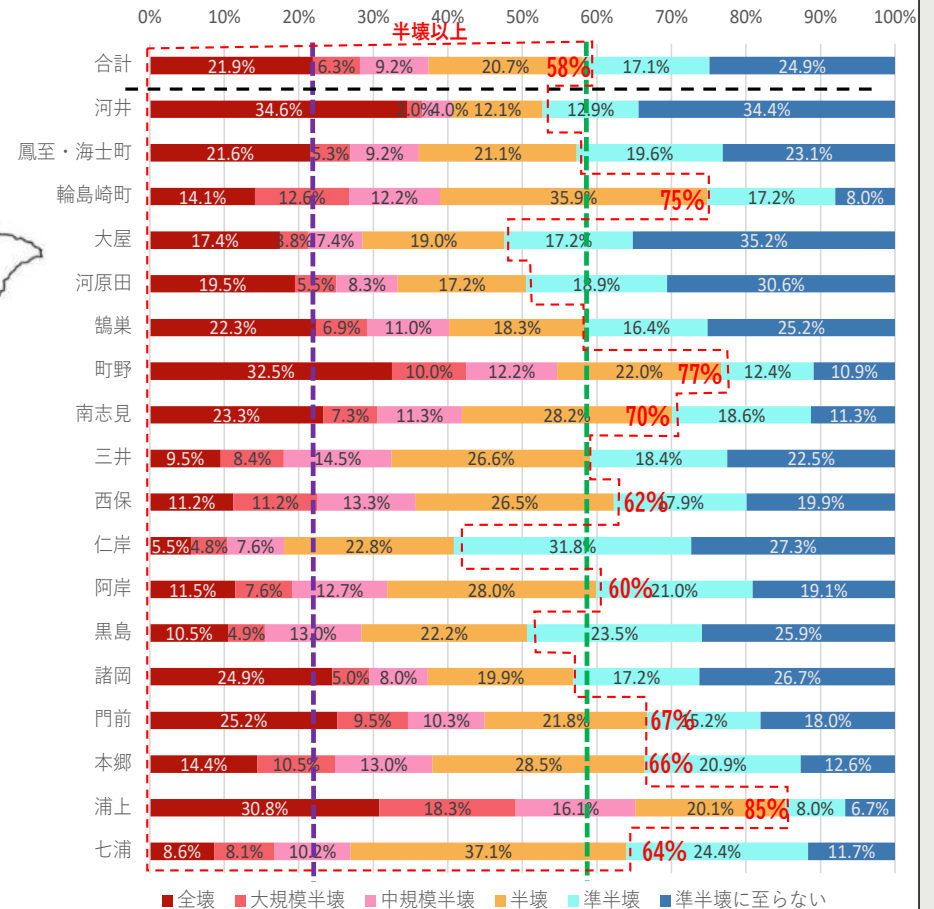
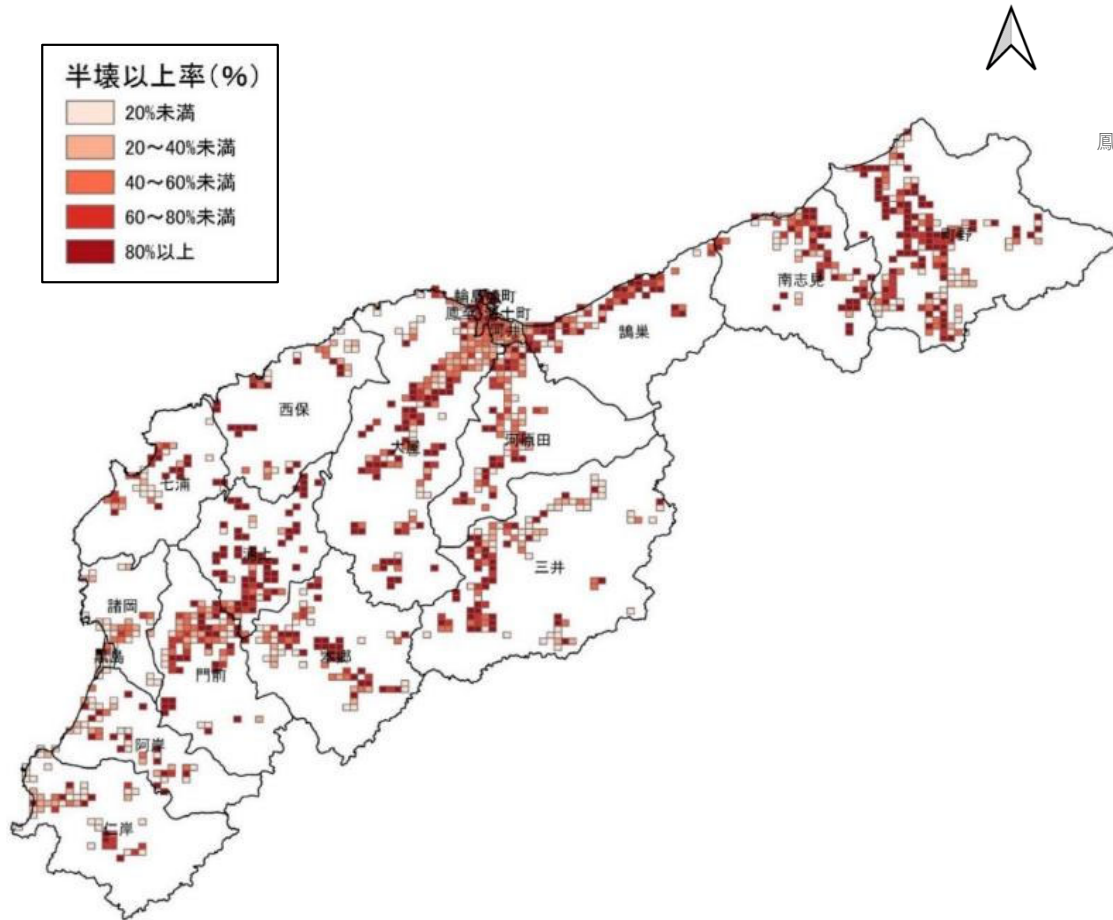
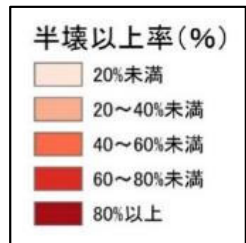
- ・ 停電 ピーク時約6,200戸→6/27現在170戸
- ・ 水道 被害全域→6/27現在10,933戸復旧、復旧率96%
- ・ 道路 能越道及び国道249号でピーク時11箇所通行止め、県道・市道の通行止め多数



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

被害概況図

■建物被害（地区別の全壊、半壊などの状況）





もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

被害の概況



朝市エリアの焼失



高層ビルの倒壊



孤立集落の発生



生活インフラの損傷



漁港施設の損壊



土砂災害



家屋の倒壊



電柱の倒壊



海底隆起・漁港機能の喪失



道路の損壊



幹線道路の通行止め



河川護岸の損壊



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

被災状況調査の結果概要

被災者の生活再建に向けた視点

- 被災後、令和6年6月までの5か月で人口が約1,500人減少。
- 建物被害は半壊以上の建物が約半数強。旧耐震基準の建物の罹災が甚大。
- 市街地において、局地的に宅地被害（亀裂、沈下・波打ち・隆起等）が見られる
- 土砂災害により被災した集落が市内に点在（主に土砂災害警戒区域や市街地部近縁等）。

復興まちづくり計画への課題

人口減少の抑制
市街地及び各集落での
安全な生活環境確保
孤立集落が発生しない
ための対策

地域を支える生業の再興に向けた視点

- 漁港12カ所のうち、陸揚げ不可の漁港が7カ所、一部使用可の漁港が4カ所、
輪島港は操業が不可となっていたが、7月24日時点で、応急復旧が完了
- 朝市エリアの火災により約300棟が焼失。現在、出張朝市等の取組も始まる
- 機能停止していた漆器産業・商業が、徐々に稼働を開始する一方で、零細小売業が廃業

輪島港など漁業施設の復旧や、
今後の災害に備えた準備
朝市エリアや漆器産業の再興

新たなまちへの再生に向けた視点

- 被災による道路の寸断などにともない、500人以上の孤立が発生（最大13日間）。
- 上水道の損壊により、長期間の断水が継続して発生。停電も大規模で発生、一部は現在も継続
- 医療・福祉施設、し尿処理・最終処分場等の公共施設で停電や断水により稼働停止

道路・交通の強靱化
上下水道等のインフラ強靱化
早期の復旧や備蓄等の備え



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

(2) 復興まちづくりに向けた市民意向

① わじま未来トーク（第1回）における議論で出されたアイデア

【わじま未来トーク実施概要】
令和6年6月15～16日、
輪島市内3箇所で開催

被災者の生活再建に向けた視点

市街地区：**市民が主体**となり活動を支える仕組み、医療と福祉のコミュニティづくり、**特徴ある教育づくり**、子どもの遊び場・活動場所の確保
西部地区：復旧復興に向けた**合意形成**、高齢者・障がい者が安心できる**福祉のまちづくり**、**子どもの教育環境づくり**、市民が主役になる活動と仕組みづくり
東部地区：**話し合う文化づくり・復興のプロセス**、子どもの教育・子育てしたいまちづくり

復興まちづくり計画への課題

市民との対話による
コミュニティづくり、
子供の遊び場・活動場所の
再建

地域を支える生業の再興に向けた視点

市街地区：**関係人口の増加**、生業の復興、新しい起業家の育成、
これからの朝市に向けて、**食・農業・地産地消**の取組
西部地区：**関係人口の構築**と人材の確保、**里山里海の魅力**を活かした一次産業と観光、
まちと生業の再生・創出（新しいまちと仕事をつくる）
東部地区：**自分たちが暮らしたいまち**をつくる

関係人口の増加、
里山里海の魅力を活かした
まちと生業の再生・創出

新たなまちへの再生に向けた視点

市街地区：**環境とエネルギー**を意識したまちづくり
東部地区：**個人的に楽しいから始める未来**を考える、
若い人に選ばれるまち（外から見て魅力的なまち）をつくる

若い人に選ばれる
持続性の高い
まちとしての再生



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

(2) 復興まちづくりに向けた市民意向

① わじま未来トーク（第2回）における議論で出されたアイデア

【わじま未来トーク実施概要】
令和6年8月10～11日、
輪島市内3箇所で開催

復興まちづくり計画に対する意見

- 市街地区：・網羅的ではあるが、震災関係なく普段から取り組むべき内容。優先順位の検討が必要では
・「もとよりもっと」の「もと」は、「**輪島が観光地として栄えていたころ**」をイメージ
・サブタイトルの「**全員参加**」が良いと思った、覚悟を感じる
・実施体制づくりが重要。**市民を巻き込んだ活動**や**若者が参加できるプロジェクト**が必要
・津波避難で車や人が混乱した、高台避難のルート確保やルールづくりが必要
- 西部地区：・網羅的であるが総花的な印象で、地域、市役所のリソースを考えると本当にできるのか
・重みづけによる優先順位の絞り込みを。その過程に**市民や高校生の声を届ける機会**を
・区長ヒアリングだけでなく、**若い世代、名もなき市民の意見**も
・範囲が広く門前への効果が不明。市街地と他の地域では隔たりを感じる
・復旧期の段階で、**創造期を見据えた修繕**を
- 東部地区：・**地域別に絞った計画**が必要では ・**スローガンは、町野版のもの**を作った方がよい

復興まちづくり計画への課題

復興プランづくりの
プロセスの見える化

市民意見を最大限に
拾い上げる検討プロセス

計画実現に向けた
プレイヤーの位置付け

地域にフォーカスした計画

具体の施策に関するアイデア

- 市街地区：・**対話の文化**、コミュニティ再生
・仮設住宅に対する不満、**住みやすい災害公営住宅**を
・市外に避難している人を戻す工夫や**若者が活躍できる仕組み**が必要
・地域再生の**伝統的な建物や街並みの保護**や、滞在時間アップなど**観光振興アイデア**が必要
- 西部地区：・**地形を生かした観光資源**づくり ・事業立ち上げのための**起業支援**
- 東部地区：・**子どもと高齢者との相互のつながり**、学校では学べない林業、漁業の自然教育
・能登の最大の魅力「海」がもたらす食文化、**海と森の循環**

多世代の繋がり、
コミュニティ再生

若者が活躍できる場

観光振興のアイデア

生活に根付く災害公営住宅

地域経済のための起業支援

自然の保全と観光資源化



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

②区長会長へのヒアリング結果概要（8月時点）

【区長会長へのヒアリング概要】
令和6年6～8月で継続して実施

被災者の生活再建に向けた視点

- ・高齢者は便利な地域拠点近くの災害公営住宅に住み、被災者同士のコミュニケーションを図りたい
- ・コミュニティの拠点の公民館・神社・仏閣の復旧、精神的な復興となるお祭りの再開が非常に重要。
- ・朝市地区や重伝建地区など、地域特性に応じて、高齢者でも対応できる生活再建を検討してほしい。
- ・土砂災害の危険があり、精神的なストレスが溜まっている。
- ・浄化槽や屋根補修の修理業者が不足。
- ・病院や買い物が不便。コミュニティバスなどの移動手段が少ない。

復興まちづくり計画への課題

公民館周辺に災害公営住宅など
高齢者にも配慮した住まい
今後の住まいの場所の合意形成
コミュニティの拠点再建
生活の足、交通機能の確保

地域を支える生業の再興に向けた視点

- ・漁港の隆起や田畑の損壊により、漁業・農業などの生業が中断している。後継者もいない。
- ・若者が残りたいと思う魅力的なアイデアや、雇用を創出する取組みが必要。
- ・農業・漁業・ワインなど素材の良さを活かし、売り物、売り方、魅力アップを考えるべき。
- ・港の再生による漁業や、田畑の再生による農業など、実情を踏まえた生業の復興が重要。
- ・隆起した海岸を有効活用して、観光施設や企業誘致などの拠点づくりをして、若い人が戻れるまちづくりが必要。

水産業・農業などの
生業の復興
観光施設や企業誘致の
拠点づくりや商品づくり
若者が戻れる産業の再興

新たなまちへの再生に向けた視点

- ・いくつかの地区で集落移転の意向があるが、みんな悩んでいる。市から移転手法や合意形成のステップを説明していただき、話し合う時間がほしい。
- ・土砂災害など危険な地区では地区外へ移住したい人もいる。地区内で話し合い判断することが必要。
- ・市役所頼りではなく、市民が協力する姿勢、地域が自立・自活する方針づくりが必要。

安全・安心で便利に
暮らせるまちづくり
地域で自立した話し合い
によるまちの再生
集落移転のルール化



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

【各団体発表の概要】
令和6年7月12日の第2回輪島市復興
まちづくり計画検討委員会で開催

③各団体発表の概要（第2回委員会）

被災者の生活再建に向けた視点

- ・ **交流（滞在）時間の倍増**
- ・ **輪島を離れた人にも戻ってきて**ほしい、産業や医療・教育・保育の衰退が**引き起こす若年層の流出**
- ・ もともとコミュニティがしっかりと形成された輪島だからこそ出来ることを実行
- ・ **仕事や住まいの不安**の解消
- ・ 各地区の住民組織や生活に必要なサービスの再生

復興まちづくり計画への課題

輪島を離れた人も
安心して戻って来れるまち
被災前からの仕事・住まい・
コミュニティの確保・再生

地域を支える生業の再興に向けた視点

- ・ 輪島塗の衰退（売り上げ低迷、担い手不足）への対応
輪島塗の復興及び観光まちづくり
- ・ **農業・漁業・産業の再生**

輪島の伝統産業や、
生業となる農業・漁業・
観光などの再興

新たなまちへの再生に向けた視点

- ・ 世界農業遺産、**能登の里山里海文化**の醸成の拠点づくり
- ・ **もっと魅力的な**輪島市に
- ・ **古い民家の立ち並ぶ**田舎において**発災時の備え**を
- ・ 家屋を保護するための防災、減災
- ・ **若い世代が中心**となった持続可能なまちづくりの計画・実行
- ・ **住む人たちが楽しいと思える**町づくり
- ・ **行政関連施設の集約化**

輪島市がもつ魅力を活かす
安全・安心、便利で
持続可能なまち
若者が魅力を感じられる
まちづくり



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

④住民アンケート結果

【住民意向アンケートの概要】
令和6年7月実施 回収数3,470票
(回収率約33%) (速報)

被災者の生活再建に向けた視点

- ・【被災状況】半壊以上の被害を受けた世帯が半数強。
- ・【今後の居住意向】58%が現在地での再建を望むが、市内での移住希望も含め、73%が引き続き市内に住みたいと回答。
持ち家に引き続き住みたいという声が70%の一方で、災害公営住宅への入居希望が13%。
- ・【暮らしに関する不安点】余震や二次災害への不安、住宅確保への不安が高い。
- ・【生活再建に向けた施策の関心】被災者に対する経済的な支援、個人住宅の再建、人口流出の抑制などへの関心が高い。

復興まちづくり計画への課題

災害のリスクが高いと
考えられるエリアを中心に、
災害に強く、安心して住める
住まいの確保による
人口流出の抑制

地域を支える生業の再興に向けた視点

- ・【就業状況】震災前に働いている人のうち、36%が休職または離職している状況。
- ・【事業・生業の課題】新たな設備投資及び資金面の不安や、集客面での不安が見られる。
- ・【生業再興に対する施策の関心】従業員・人材の流出抑制、資金の確保・支援、漁業への再建支援などへの関心が高い。
- ・【輪島の良いところ】豊かな自然風景や漁業文化、伝統工芸などに関する関心が高い。

従業員・人材の流出抑制
(職の確保)や
事業再建に向けた支援
漁業関係や伝統工芸・商業など、
輪島らしさを活かした再興

新たなまちへの再生に向けた視点

- ・【どこに住みたいか】災害に対する安全・安心を重視する声が高い。
一方で、道路などインフラ整備がされているか、買物や生活に便利かなどを重視する声も。
自家用車での運転の不安や福祉施設の利用が不便になることの不安も見られる。
- ・【まちへの再生に向けた施策の関心】災害に強い道路網・上下水道整備に関する関心が高い。

災害に強いまちづくり、早期の
インフラ復旧、安全安心な
居住環境の確保
買物や通院などの生活に便利な
場所への居住及び移動手段確保
(道路・公共交通)



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画 基本構想

⑤住民懇談会での意見概要

【住民懇談会開催概要】
令和6年8月17～29日、
輪島市内7箇所で開催

被災者の生活再建に向けた視点

- ・【災害公営住宅】災害公営住宅の整備（惣領町、稲舟町、浦上地区）
- ・【子ども】未来ある輪島の子どもたちが震災で犠牲にならないような施策
- ・【人口流出】市外避難者を元に戻す
- ・【集団移転】市内での移住を進めて集約させる場所の明示、高台への集団移転
- ・【コミュニティ】中山間地集落でのコミュニティの維持、地域コミュニティが集まれる場所の再生

復興まちづくり計画への課題

災害公営住宅の整備
子どもたちのためのまちづくり
集団移転などによる災害に強く、
安心して住める
住まいの確保やコミュニティの
維持・再生
人口流出の抑制

地域を支える生業の再興に向けた視点

- ・【交流人口】移住・定住者や観光で訪れる方が復興の頼り
- ・【地域経済】宿泊、飲食など賑わいを生み出す施設の復興、地元で買い物する場所や企業の誘致
- ・【生業資源】山や海の資源の保全
- ・【農業】米作りを一つの産業として若者の流入促進
- ・【林業】林地へのアクセス路整備、放置されている林地を時間をかけて広葉樹の森へと変更
- ・【観光、漁業】埋立などによる大型クルーズ船などが泊まれる大きな港や漁港の整備

生業による移住・定住者の増加
賑わいを生み出す施設の整備
生業資源の保全・整備

新たなまちへの再生に向けた視点

- ・【防災・減災】地震の備えがされているという安心感（避難所環境、備蓄）、避難路の増設
- ・【宅地】ライフラインが途絶えてもすぐ復旧できるような強靱な宅地造成（無電柱化）
- ・【安全・安心】安全安心なまちに向かって進めていかねばならないというメッセージの発信
- ・【震災遺構】生活に支障がない箇所での震災遺構の保存
- ・【ライフライン】新たなライフラインの整備（小電力・風力発電、井戸）
- ・【公園など】子供たちが遊び・食事しながら、親がくつろいだり、高校生が集えるような施設、公園の整備

災害に強いまちづくり、早期の
インフラ復旧、安全安心な
居住環境の確保
震災遺構の保全、活用
子ども、若者・子育て世代が
集える施設・場所の整備

もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画



■ 将来都市構造 (案)

これまで目指してきた都市構造を踏まえつつ、将来にわたり安全・安心で持続可能な都市を目指し、「ゾーン」「都市拠点」「都市軸」からなる将来都市構造を設定

■ 基本的な考え方

- 輪島・門前・町野の市街地（拠点）は、行政が中心となり住まいや日常生活に必要な機能等を確保
- 各地区において安心して暮らせるよう、公民館を核としたコミュニティを再建
- 各集落においても復旧を進め、現地再建を支援していくとともに、各地域での話し合いを通じて、災害リスクや孤立可能性の高いエリア等から拠点への移転を支援

ゾーン：土地利用の構成・方針

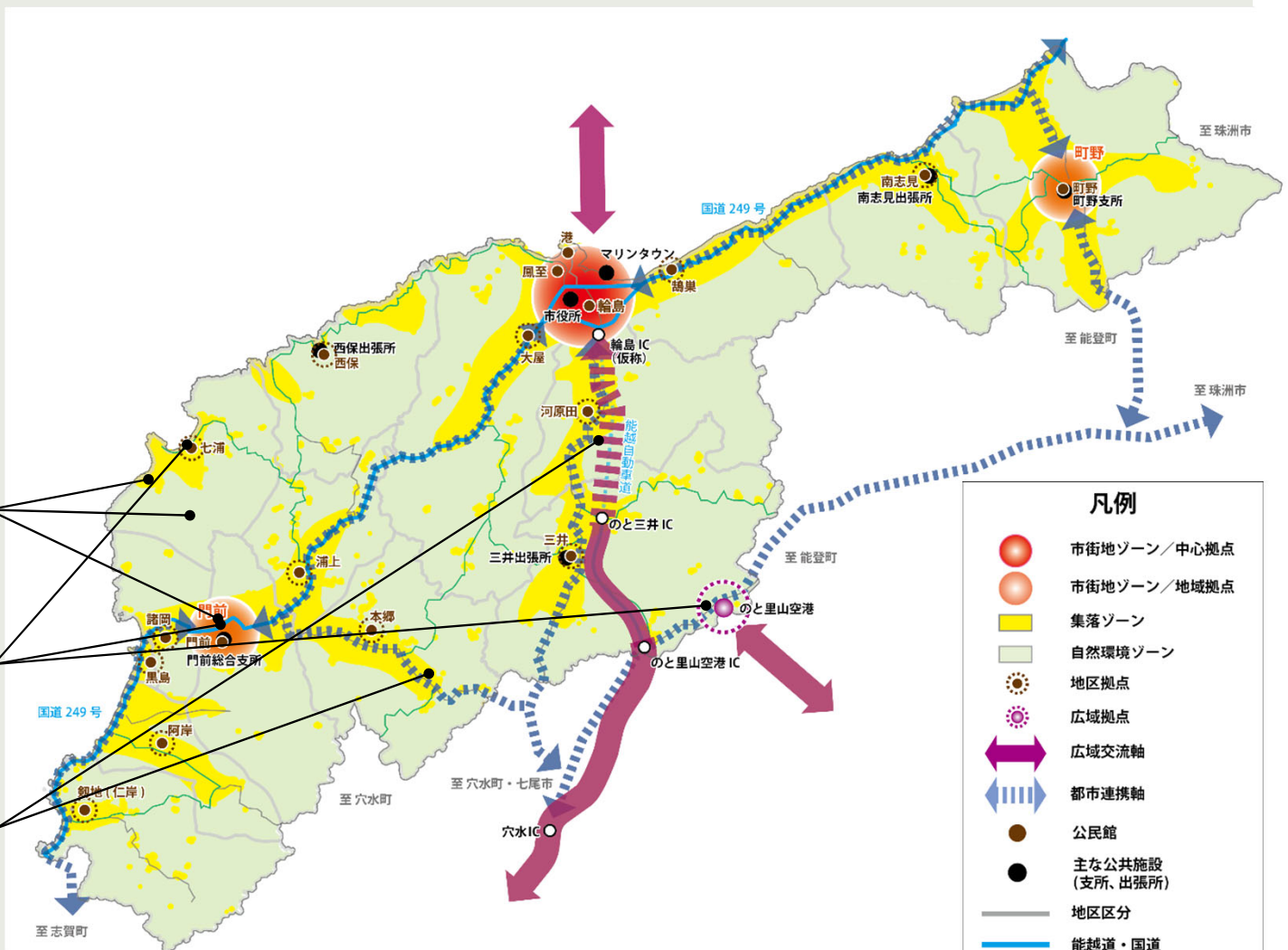
市街地ゾーン・集落ゾーン・自然環境ゾーン

都市拠点：拠点の配置・位置づけ

中心拠点・地域拠点・地区拠点・広域拠点

都市軸：都市内・都市間のネットワーク

広域交流軸・都市連携軸



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画



■ 将来都市構造（案）

①ゾーニング …土地利用の構成・方針

■ 市街地ゾーン

（輪島地区、門前地区、町野地区の市街地）

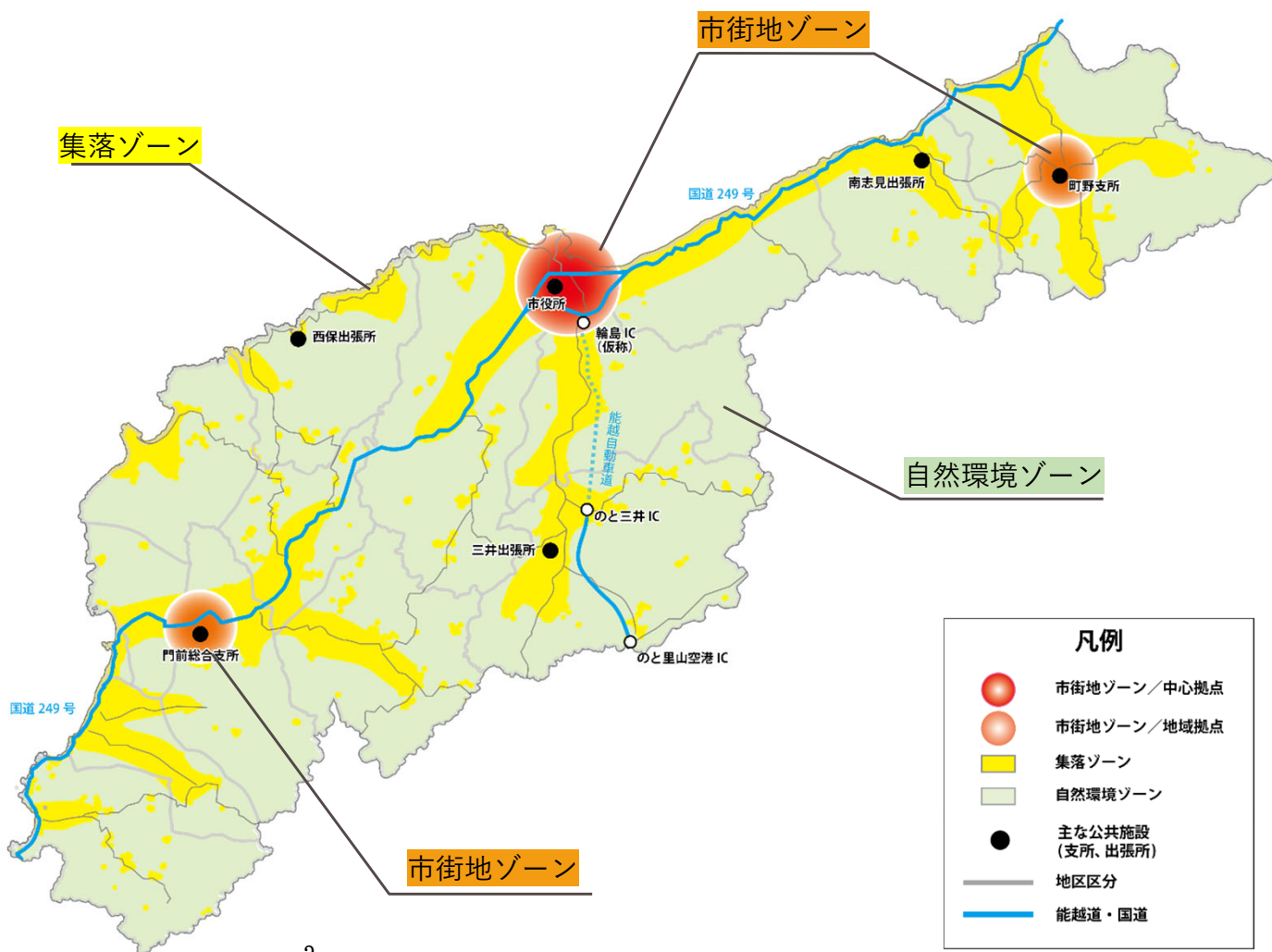
- ・ 早期のインフラ復旧や強靱化の推進
- ・ 安全・安心で多様な暮らしを選択できる住環境の整備
- ・ 行政サービスをはじめ日常生活に必要な機能の確保

■ 集落ゾーン（各地区の中心や山間・沿岸の集落）

- ・ 地域の希望に応じた住まいの確保やコミュニティの再生
- ・ 特色ある山間・沿岸集落景観や自然と共生した住まいの再生・継承
- ・ インフラの復旧、効率的な生活基盤施設や市民サービスの見直し
- ・ 拠点的な市街地と集落の連携

■ 自然環境ゾーン（主に山間部の区域）

- ・ 農林業基盤の復旧
- ・ 自然環境の保全・管理・育成による防災・減災の推進
- ・ 隆起した海岸線等の震災遺構の活用検討を含めた景観資源の保全・育成



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画



■ 将来都市構造（案）

②都市拠点 …拠点の配置・位置づけ

■ 中心拠点（輪島地区の中心市街地）

- ・人口や多様な都市機能が集積した本市全体の拠点

■ 地域拠点（門前・町野地区の中心部）

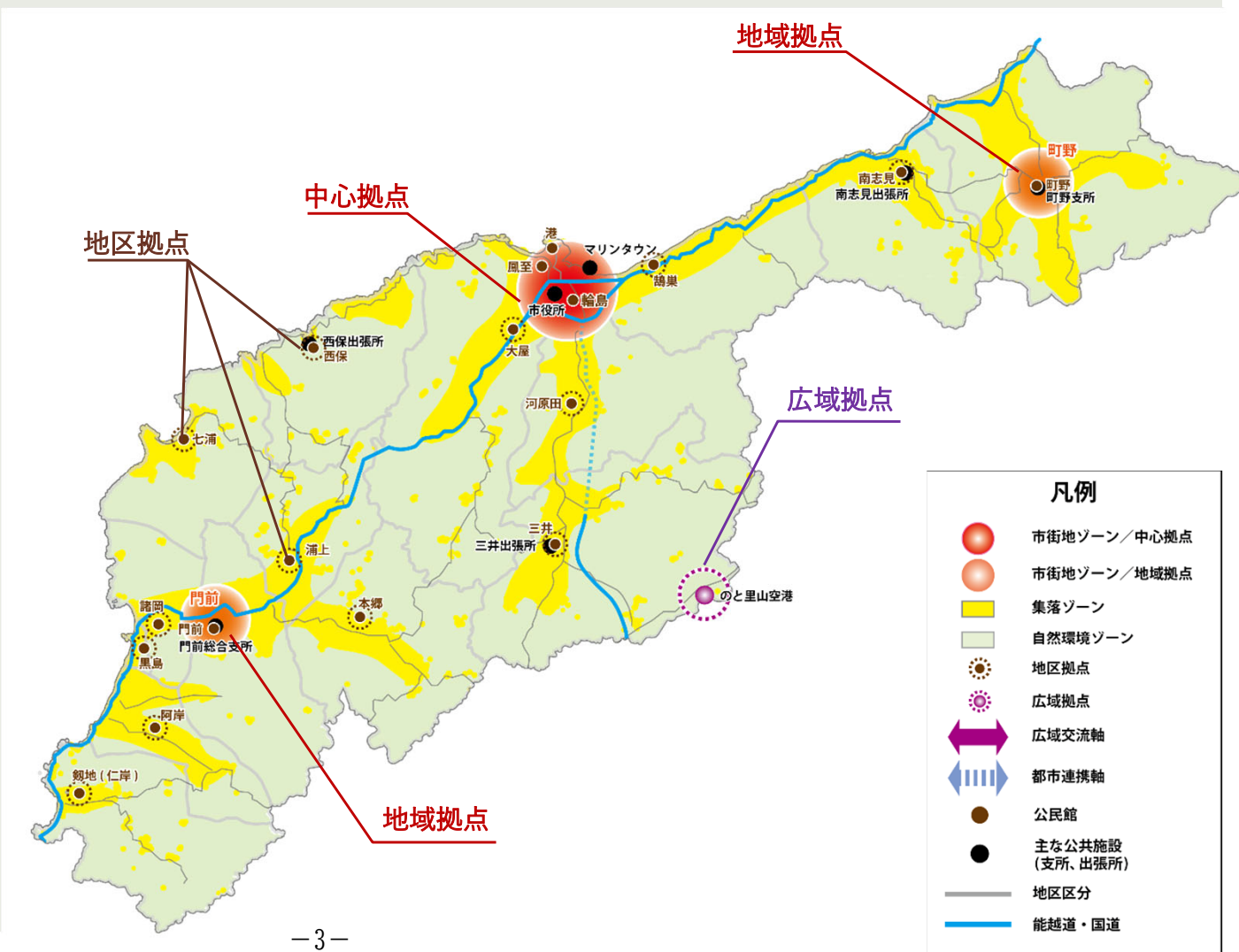
- ・一定の人口密度を維持し、行政機能や生活利便機能を備えた地域の拠点

■ 地区拠点（各地区の公民館周辺）

- ・防災機能を備えた住民主体のコミュニティの核となる拠点

■ 広域拠点（のと里山空港の周辺）

- ・奥能登2市2町の広域的な公共サービスを支える拠点





もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画

■ 将来都市構造（案）

③ 都市軸 … 都市内・都市間のネットワーク

■ 広域交流軸

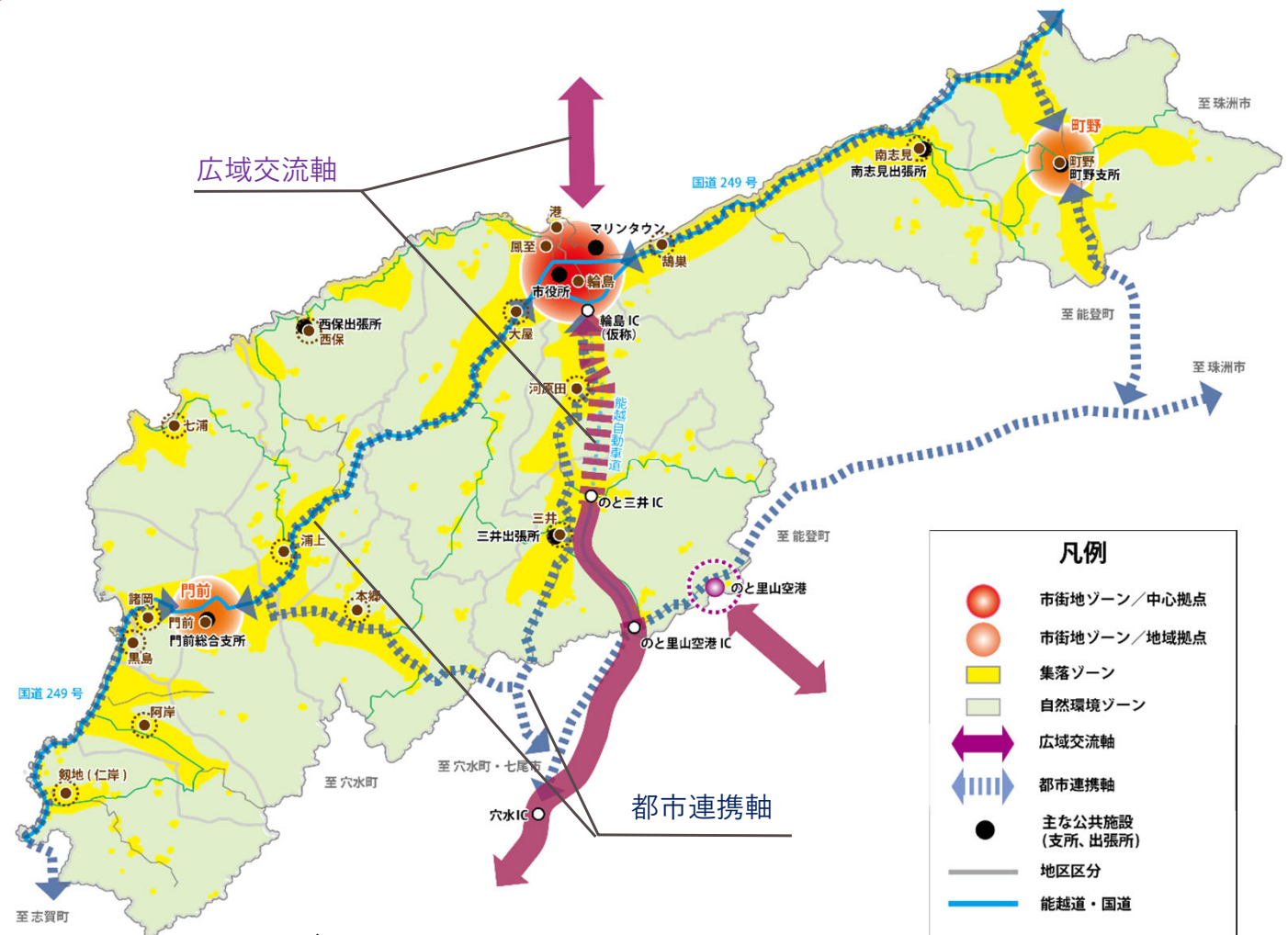
（本市と金沢都市圏や首都圏等をつなぐ、陸路、航空路、海上航路）

- ・ 能越自動車道、輪島港マリントウン、のと里山空港のさらなる機能強化による産業面・観光面・生活面での広域的な連携・交流の強化

■ 都市連携軸

（本市と周辺市町や市内の都市拠点を結ぶ国道や主要地方道）





- ・ 広域的なネットワークや災害時の主要な幹線道路としての強靱化の推進による多様な機能の連携と広域的な交流の推進



もとよりもっと 新・輪島 輪島市復興まちづくり計画



■各ゾーン・拠点の復興に向けた方針（案）

ゾーン	都市拠点	対象地区	各ゾーン・拠点の方針等	
			位置づけ	都市機能等の方針
市街地ゾーン	中心拠点 	輪島市街地	人口や多様な都市機能が集積した本市全体の拠点	<ul style="list-style-type: none"> 多様な誘導施設や防災拠点の整備 最優先のインフラ等の復旧・強靱化 公共サービスの集約・充実
	地域拠点 	門前・町野	一定の人口密度を維持し、行政機能や生活利便機能を備えた地域の拠点	
集落ゾーン	広域拠点 	のと里山空港周辺	奥能登2市2町の広域的な公共サービスを支える拠点	<ul style="list-style-type: none"> 広域的な都市機能・防災機能の整備 最優先のインフラ等の復旧・強靱化 広域的な公共サービスの集約・充実
	地区拠点 	各地区の公民館周辺	防災機能を備えた住民主体のコミュニティの核となる地区の拠点	<ul style="list-style-type: none"> 防災機能の強化 インフラ等の復旧 現状の公共サービスの維持
	—	幹線道路沿線、山間・沿岸の集落	持続可能な集落のあり方をそれぞれで検討(意向により移転を支援)	<ul style="list-style-type: none"> 順次インフラ等の復旧 公共サービスの見直し
	—	災害の危険なエリア等	孤立リスク、将来行政コスト削減の観点から、希望者の移転を支援	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じたインフラ等の復旧 公共サービスの見直し
自然環境ゾーン	—	山間部	孤立リスク、将来行政コスト削減の観点から、希望者の移転を支援	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じたインフラ等の復旧 公共サービスの見直し

今後のスケジュール

項目		月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
輪島市復興まちづくり計画	復興まちづくり計画の策定		●市長メッセージ		基本構想(中間報告)		基本構想(案)	基本構想都市構造図	都市構造図復興まちづくり計画(案)	復興まちづくり計画(案)		パブリックコメント	公表			
	輪島市復興まちづくり計画検討委員会			①5/9		②7/12	③8/8	④9/20	⑤10/28予定	⑥11/22予定	⑦12/20予定		市への提言			
	アンケート				まちづくりに関するアンケート			住まいに関するアンケート		※住まいに関するアンケートは必要に応じて2回目を実施						
	住民懇談会(7地区)															
	区長会長等個別訪問(19地区)							継続して訪問(月1回予定)								
	わじま未来トーク					6/15,16		8/10,11								
各種団体による協議検討																
朝市エリア検討関係	朝市周辺エリア先行プロジェクトの検討						先行プロジェクト方針(案)	先行プロジェクト方針(案)	先行プロジェクト(案)		実現方策の検討					
	地権者の意向把握						区長訪問等	焼失地区の地権者聞きとり		地権者聞きとり等を随時実施						
	朝市カムバックイベント								9/14	継続的な実施も視野						

今後のスケジュール

回	開催日時	委員会の内容（予定）
第1回	令和6年 5月 9日	委員紹介、計画の概要及びスケジュールの確認
第2回	令和6年 7月 12日	民間団体の活動状況発表 報告事項（わじま未来トーク、市民意見等） 基本構想（中間報告）
第3回	令和6年 8月 8日	基本構想（案）、報告事項（調査等）
第4回	令和6年 9月 20日	報告事項 議決事項（基本構想） 都市構造図、基本計画（案）（配布）
第5回	令和6年 10月 28日 13時30分から予定	活動状況発表（輪島高校、門前高校など） 報告事項 議決事項（都市構造図） 復興まちづくり計画（素案）
第6回	令和6年 11月 22日 14時から予定	報告事項 復興まちづくり計画（案）
第7回	令和6年 12月 20日 14時から予定	議決事項（復興まちづくり計画（案）） 震災復興対策本部への提言 各委員からの感想